

日本生体医工学会 2021 年度第 5 回理事会議事録案

日時：令和 4 年 3 月 11 日(金) 14:00～17:00

会場：ME 試験事務局内 会議室 (CE コーポレーション)

<出席者>

理事長： 守本 祐司

副理事長： 木村 裕一

理事： 横澤 宏一、山家 智之(兼 東北支部長)

<Web 出席者>

副理事長： 成瀬 恵治

理事： 佐久間 一郎 (兼 関東支部長)、川田 徹、平田 雅之、松田 哲也、中島 一樹、
松村 泰志、村垣 善浩、塩澤 成弘、黒田 知宏、杉町 勝、中島 章夫、
大城 理 (兼 関西支部長)、芦原 貴司、堀 純也

監事： 阿部 裕輔、中沢 一雄

<オブザーバー・出席者>

幹事： 坪子 侑佑、木村 雄亮

事務局長： 磯山 隆

オブザーバー： 大橋 俊朗 (北海道支部長)、渡邊 英一 (東海支部長)、
原口 亮 (専門家別研究会評価委員会)、椎名 毅 (第 60 回大会長)、
石原 謙 (中国・四国支部長)、堀 潤一 (第 61 回大会実行委員長)

<欠席者>

理事： 坂田 泰史、井村 誠孝

監事： 望月 修一

オブザーバー： 嶋津 秀昭 (北陸支部長)、荒船 龍彦 (若手研究者活動 WG 長)、
坂本 信 (第 61 回大会長)、杉原 伸宏 (甲信越支部長)、
家入 里志 (九州支部長)、福岡 豊 (生体医工学編集委員長)、
王 鋼 (ABE 編集委員長)

<理事会議題>

1. 理事会の成立 守本理事長

定款 34 条 2 項に則り、理事総数 21 名の 1/2 にあたる定足数 10 名を超える 19 名の出席と監事 2 名の出席を確認したことから、本理事会は成立した。

2. 2021 年度 第 4 回目理事会の議事録の承認【審議 A】 山家理事

2021 年度 第 4 回理事会議事録案の内容について、全会一致で承認された。

3. 臨床 ME 専門認定士 2021 年度新規・更新認定者承認について【審議 H】 中島（章）理事

2021 年度の臨床 ME 専門認定士認定者の新規、および更新の認定者について報告された。新規申請者は認定要件を満たした 34 名であり、更新申請者は更新要件を満たした 146 名（内、更新 1 回目：53 名 2 回目：40 名 3 回目：21 名 4 回目：32 名）であることが報告された。これらの新規・更新者について、全会一致で承認された。

4. 2022 年度 実践 ME 技術講習会実施計画について【報告 H-3】 中島（章）理事

2022 年度実践 ME 技術講習会の実施計画について報告された。本年度の講習会は昨年度と同様に医療機器学会のサーバを借用し、Web 上でのオンデマンド形式で行う予定である。会期は 2022 年 10 月 30 日-11 月 20 日を予定しており、以下の全 5 テーマで講習会を実施する予定である旨が報告された。

1. COVID 関連 東京医科歯科大学の臨床工学技士
2. サージカルスモーク 山田 二三歩先生
3. サージカルスモーク Dr 側からの視点
4. 医療安全管理者として 鹿又先生（埼玉医大）
5. 透析関連排水の適正管理 内野 順司先生（みはま病院）

5 つのテーマのうち、2. サージカルスモーク（講師：山田 二三歩先生）以外は新規の内容となる旨が報告された。

本件について、サージカルスモークとはどのようなものか質問され、超音波メスやレーザメス、電気メスなどの手術用メスで組織を焼いた時の煙（噴霧）のことである旨が回答された。サージカルスモーク中にはタバコの煙の約 20 倍の害を及ぼす物質が含まれる可能性があり、これを手術時は吸引しながら行う必要があるという観点から、講演では噴霧中にどのような物質が含まれておりどのような危険性があるか、および外科医の観点から話して頂く予定である旨が報告された。

5. 2022 年度 第 1 種、第 2 種 ME 技術実力検定試験 開催概要・日程等について【審議 I】 中島（章）理事

2022 年度第 1 種、第 2 種 ME 技術実力検定試験の事業計画について報告された。昨年度は 1 種、2 種共に試験を実施し、1 種はオンラインで試験を実施した。本年度は第 27 回第 1 種 ME 技

術実力検定試験およびその講習会、第 43 回第 2 種 ME 技術実力検定試験、第 44 回医療機器安全基礎 ME 技術講習会講習会の開催（財医療機器センターと共催）を開催する予定である。

第 44 回医療機器安全基礎 ME 技術講習会講習会は、8-11 月の約 3 か月間で実施する予定であり、オンデマンド方式で行う予定である。

第 27 回第 1 種 ME 技術実力検定試験について、試験問題は 1 月より作製を開始しており、4 月半ばまでに完了する予定である旨が報告された。また、5-6 月半ばにオンデマンドで開催予定である第 1 種の講習会についても現在計画を進めており、講習会で使用する問題の選定、および録画撮りを開始している。また第 1 種試験は 6 月 26 日にオンライン形式で実施予定である旨が報告された。

第 43 回第 2 種 ME 技術実力検定試験について、9 月 4 日に対面形式で実施する予定である旨が報告された。全国 8 地区で試験を実施する予定であり、試験会場は各地域の試験責任者により、順次予約が進められる旨が報告された。また、8 月中に基礎講習会を進める予定である旨が報告された。

本件について、昨年の流れを踏襲しているのか質問された。これに対し、基本的にはその通りだが、受験者数について 2021 年は 2020 年度の第 2 種試験が実施されなかったため、基本的に第 2 種の合格者が受験する第 1 種の受験者が減少したが、本年度は 2021 年の第 2 種試験の開催に伴い、受験者が増加することを見込んでいる旨が回答された。また第 2 種試験については、2020 年に第 2 種試験が実施されなかった分、昨年度は受験者数が約 7,000 名まで増加したが、本年度は例年並み（約 6,000 人）になると仮定し、準備を進めている旨が報告された。

本事業計画について、全会一致で承認された。

6. 2021 年度 論文賞・阪本賞の選定について【審議 K-1】 横澤理事

論文賞・阪本賞の当該年度の選定が行われた旨が報告された。候補論文は、生体医工学および ABE に掲載された論文の中から編集委員会で絞り込み、更に選定委員会内で選定が行われた旨が報告された。その結果、

論文名：複数の超音波ボリュームを用いた 3 次元血管網拡張と撮像状況の変化に対する有用性の検証

著者：安田育武、片井拓弥、岡留寛斉、渡邊晃介、枝元良広、榊田晃司
に決定した旨が報告された。

論文賞・阪本賞の選定について、全会一致で承認された。

7. 2021 年度 研究奨励賞・阿部賞の選定について【審議 K-2】 椎名研究奨励賞・

阿部賞 選定委員会委員長

研究奨励賞・阿部賞の当該年度の選定が行われた旨が報告された。第 60 回大会の発表者の中で規定に該当する候補者を事務局で選定し、62 名のノミネートを行った。ノミネートされた中で更

に 12 名に厳選し、選考委員会の中で投票を行い、投票の多かった上位 4 名を、研究奨励賞・阿部賞候補として選定して旨が報告された。

本件について、上位 4 名で足切りを行ったことは適切かどうか質問され、今回は選考委員会内の投票数が 4 点以上で足切りを行ったが、もし 3 点以上で足切りを行った場合、人数が大幅に増えてしまうため、この 4 名が適切である旨が報告された。また候補者 4 名中 1 名が、過去に研究奨励賞・阿部賞を受賞していることが指摘され、その方を除く 3 名を研究奨励賞・阿部賞受賞者とする事で、全会一致で承認された。

また、研究奨励賞・阿部賞について、産休などに伴い研究活動を中断されていた方などがいるため、

第 21 条 イ. 講演の時期において 35 歳以下の者であること。ただし、産前産後及び育児休業を取った場合は、年齢制限をその期間分延長する。

という内容で条項の改訂が行われることが、前回の理事会で承認された。本改訂に伴う研究奨励賞・阿部賞の選定は、次回の新潟大会より実施されることについて、全会一致で承認された。

8. 2021 年度 新技術開発賞 受賞なしについて【審議 K】 黒田理事

新技術開発賞の当該年度の選定が行われた旨が報告された。当該年度の応募は 1 件のみであったが、当該商品は HP に記載されておらず、商品化され、市場に出ているものではないことが判明した。新技術開発賞の規定 14 条に「商品として優れた実用性が実証された生体医工学技術」とあるため、市場に出ていなければノミネート候補に当たらないと考えられる。本件について選奨委員会内で決を採ったところ 17 票中 13 票が否決したため、本年度は該当者なしとしたい旨が報告された。

本件について、候補者選定手続きの中に、第 3 項「システムなどの市販の価格」を問うものがあり、市場に出回っていることが前提となっている旨が報告された。また、応募書類に商品化されている必要がある旨を記載し、更に商品化されていることが明確に分かる書類を添付することを応募条件に追加した方が良いのではないかという意見が出された。更に、現状の定款だと、主に自社内で全て開発を行う必要があるとされているが、現状それは困難な場面が多いため、その点も改訂した方が良いのではないかという意見も出された。これについて、定款 17 条に共同研究に関する旨が記載されているため、必ずしも自社内で全て開発しているものに限っておらず、定款を改訂する必要は無い旨が回答された。

以上より、本年度の新技術開発賞は該当なしで、全会一致で承認された。また上述の提案について、黒田理事、松村理事で候補者選定手続き、および応募案内の改訂案を作成頂き、次回の理事会で提出されることとした。また本件について何か案があれば、両理事に連絡することとした。

9. 2021 年度 臨床応用研究賞・荻野賞の選定状況について【報告 K】 山家理事

臨床応用研究賞・荻野賞の当該年度の選定について、現在選定の最中であり、来週中にメールでのみなし理事会承認を依頼する旨が報告された。本件について、受賞者は学術大会に参加して

頂く必要があるため、できるだけ3月中に選定して頂きたい旨が報告された。

10. 専門別研究会評価委員会の評価結果の答申【審議 R】 芦原理事、原口専門家別研

究会評価委員会委員長

専門別研究会評価委員会より、前年度事業報告・決算報告・次年度の事業計画・予算計画に基づく専門別研究会の評価が行われた旨が報告された。評価委員は前回の理事会で承認された4名（芦原理事、大城理事、中島理事、原口専門家別研究会評価委員会委員長）である。評価基準としては、2021年度の開催回数と2022年度開催予定回数の少ない方で予算額を決定し、1回開催あたり×25,000円、上限100,000円とする。研究会の設置期間は3年であり、研究会会長は任期3年で、1期に限り再任可とする。

新設の研究会については、2件の申請があった旨が報告された。1件目は「大規模災害の医工学」であり、会長は生田幸士先生である。2022年度は年間4回の研究会開催が予定されている旨が報告された。本研究会についての評価は「問題点はあるが、修正されれば支給可とする研究会」とされた旨が報告された。本評価について、申請書に「医学者、医師、医工学者、情報工学、心理社会学者、救急医療者など多彩な委員から構成される形態とする。」とあるため、申請書記載の幹事団に加え、多彩な分野から若手2名以上を幹事とし、研究会の運営に参画させること、また広く会員から研究発表を受け付け、会員が研究会に参加できるように周知することの要件を満たせば、研究会の新規設置を認める旨が報告された。

2件目は「生体医工学研究におけるPHR基盤利用研究会」であり、会長は竹村匡正先生である。2022年度は年間2回の研究会開催が予定されている旨が報告された。本研究会についての評価は、「問題なく認める」とした旨が報告された。ただし来年度以降、大会中でのオーガナイズドセッションの企画を考慮して頂きたい旨が報告された。

本件について、「大規模災害の医工学」の方には修正点を連絡したのか質問があり、本理事会承認後に通達する予定である旨が報告された。

新設2件の研究会の評価について、全会一致で承認された。

再設置の研究会については、3件の申請があった旨が報告された。これら3件の評価については全て、「問題なく認める」とし、規定通りに予算配分を行う予定である旨が報告された。再設置に伴う変更は、以下の通りである。

- ・次世代治療技術開発のための細胞組織・分子機能の計測・制御研究会について、2024年度まで再設置を認め、新会長は大川晋平先生とする。

- ・BME on Dementia 研究会について、研究会会長を浅川毅先生に交代し、任期は研究会設置期間である2023年度までとする。

- ・fNIRS (functional near-infrared spectroscopy) 計測・解析技術研究会について、2024年度まで再設置を認め、新会長は佐藤大樹先生とする。

本件について、再設置についての基準や規定などはあるのか質問され、再設置は3年ごとに期限までに申請を行ってもらえれば可能であり、また会長については任期3年、再任1回までであ

る規定がある旨が報告された。また、「大規模災害の医工学」について、資料には生田幸士先生が「次世代医療デバイス研究会」の会長を兼任しており、「大規模災害の医工学」が設立された場合、「次世代医療デバイス研究会」の会長を交代する旨が記載されているが、再設置について連絡は無いのか質問された。本件について、現状連絡は受けておらず、また会長の兼任は可能ではあるが、できれば別の方をお願いして頂きたい旨が回答された。本件について、会長の交代自体が理事会承認事項であるため、その旨生田先生に至急通達するよう、連絡された。また、活動実態の評価は行われているのか質問され、現状は書面のみの確認となっているが、今後、活動がきちんとして行われているかの評価は必要である旨が報告された。ただし、活動実態の評価は、特にコロナ禍の中では困難である。そのため、直近の活動実態や、これからの意欲（計画）を含め、どのように評価すべきか、現在評価基準を現在選定中である旨が報告された。

以上の議論を以って、再設置および会長の交代について、全会一致で承認された。

続いて、設置を終了する研究会について報告された。設置を終了する研究会は「精神・睡眠医療と ME 研究会」の 1 件であり、こちらは再設置も申請が無かったため、本年度で終了する旨が報告された。

以上より、本年度は 19 の研究会で予算配分が行われる旨が報告された。予算配分は、昨年度の開催回数と次年度の開催予定回数の少ない方×25,000 円で決定される旨が報告された。また、新設、および会長交代のあった 5 つの研究会については、研究会紹介記事の執筆を依頼している旨が報告された。本記事は「生体医工学 9 月号」に掲載予定である。また、今年度から学会のメーリングリストがリニューアルして使用されているが、研究会の方での演題募集や参加者募集といったような利用がほとんど行われていなかった。このメーリングリストを通じ、演題公募や参加者募集などを行ってほしい旨が通達された。

本件について、新潟大会での対面実施が可能なら、各研究会の会長を集めた連絡会を開いてみてはどうか提案された。本件について、連絡会は協議会として既にオンラインで実施している旨が報告された。また、研究会周知のために、HP を作成してみてはどうかという提案がされ、現在 G suite のアカウントを各研究会に配布し、研究会 HP の作成も進めている旨が報告された。更に周知のための手段として、学会誌に紹介記事を載せることも検討している旨が報告された。これにより doi を付与した上で公開することができ、会員や社会への公開を進めている旨が報告された。本件について生体医工学誌のページ数などに制限はあるのか質問された。これに対し、制限などは特になく、掲載可能だが、過去に財務の関係で支部会の抄録が掲載されなくなり、その代わりとして全国大会の抄録集にのみ doi を付与し、生体医工学に掲載することになった旨が報告された。このため研究会や支部会の記事を掲載する場合、例えばオンライン上のみでの公開とするなど、費用とのバランスを考慮し、方法を検討する必要がある旨が報告された。また、来年度に設置が終了となる予定の研究会が 10 件存在するため、これらについても紹介記事の執筆を依頼した方がよい旨が報告された。

以上の議論を以って、設置終了の研究会、補助金の配布、研究会への紹介記事の執筆依頼、およびメーリングリストを通じた研究会の演題候補や参加者募集を行うよう通達することについて、全会一致で承認された。また、来年度に設置終了予定の 10 件の研究会については、時々状況報告をして頂くよう、連絡された。

11. 第 61 回新潟大会の状況について【報告】 堀（潤）第 61 回大会実行委員長

第 61 回日本生体医工学会新潟大会の準備状況について報告された。現在、一般演題の応募が締め切られ、一般演題数は 231 件（内、口頭発表希望 144 件、ポスター発表希望 87 件）、CE は 6 件であった。発表方式はあくまで希望であるが、現状は応募者の希望通りに行う予定である。開催方式（実地開催かオンライン開催か）について、現状は実地開催で準備を進めているが、最終的には 3 月末に決定する予定である。実地開催の場合、ポスターは間隔を開けて設置するなどにより、コロナ対策を行う旨が報告された。協賛については、現状申し込みが少ない。開催方式の決定により、申し込みの増加が見込めるが、学会本部からも企業へご依頼頂きたい旨が報告された。また特別企画について、招聘講演、特別講演の講演者が決定した旨が報告された。現在ホームページには演題名、および名前のみを記載している。詳細な講演内容に関する記載は、これから作成を行う旨が報告された。本年度はコロナ対策のため、ランチョンセミナーは行わない予定であり、情報交換会の方も、人数を限定して行う旨が報告された。

本件について、演題数に対する大会規模は予定通りか質問され、概ね予定通りである旨が回答された。また、開催方式は、どのように決定するか質問され、感染者数増加の有無や同じタイミングで開催される周辺学会の開催方式の状況、および地方公共団体の方針などの状況を鑑みつつ決定する旨が回答された。また、費用対効果が大きくないため、ハイブリッド開催については実施する予定はない旨が報告された。また、実地開催の場合、招聘講演は海外の先生であるため、来日できない可能性がある。その場合、招聘講演は実地会場中にオンライン用の会場を設定して講演を行って頂く予定である旨が報告された。

12. 第 60 回大会収支報告【報告 T】 椎名第 60 回大会長

第 60 回日本生体医工学会大会の最終的な収支について報告された。収支内容は前回理事会で報告されたものと同様であり、公認会計士の馬目先生にご確認頂いた旨が報告された。通帳の解約、補助金の返還、および日本生体磁気学会の方への送金が完了し、最終的に約 80 万円の黒字となった旨が報告された。

本件について、関西支部については黒字分の 50%をインセンティブとして申請可能であるため、申請を行って頂くよう、報告された。

13. 第 62 回大会について【審議 T-1】 渡邊東海支部長

第 62 回日本生体医工学会大会について、報告された。開催日時は 2023 年 5 月 18-20 日であり、会場は名古屋国際会議場になる予定である。また収支予算として 22,844,000 円を予定している旨が報告された。

本件について、口座の開設は完了しているか質問され、現在進めている旨が回答された。また、口座の開設が完了した場合、学会より学会開催本部準備金である 300 万円を振り込むことが可能となるため、開設次第、生体医工学会事務局へ報告することとした。運営の依頼先については未

決定であるが、今月末に正式に決定する予定である旨が報告された。また予算案中の運営会社委託費は最高額のものを記載しており、依頼する運営会社次第で変動する予定である旨も報告された。予算案について、京都大会の時と比較し、金額が大きくなっている理由について質問され、京都大会は完全オンライン開催であったのに対し、実地開催を検討しているため、会場費と情報交換会関係費、および運営会社委託費がかかるためである旨が回答された。

以上より、収支予算案および、学会開催本部準備金の支給について、全会一致で承認された。

14. 2022・23 年度理事・監事選挙結果報告【報告 L】 堀（純）理事

2022・23 年度理事・監事選挙の結果が開票され、報告された。

代議員数 166 名に対して、総得票数は 131 票（投票率 78.9%）であり、無効投票はなかった。選挙管理委員会で得票数を確認し、理事候補者については、M 系 E 系それぞれで上位 3 名を選出した後、M 系 E 系不問で上位 3 名を選出し、1 名ずつ次点を決定した。監事候補者については E 系から 1 名を選出し、1 名の次点を決定した旨が報告された。M 系・E 系問わずの得票が M 系に偏っていたが、現行の選挙規定としては問題ない旨も報告された。

次に、本選挙における得票数の推移について報告された。得票率は去年より大幅に増加しており、これは事務局より、投票締切の約 1 週間前に全代議員宛、締切 2 日前ならびに締切当日に未投票者宛へリマインドをし、計 3 回のリマインドが投票率向上に奏功した旨が報告された。メールアドレスを登録していない代議員が数名おり、郵送にて連絡した旨も報告された。

理事会の承認枠の理事推薦については、次回理事会で検討することとした。

15. 厚労科研の進捗について【報告 Q】 黒田理事

臨床研究法の見直しにかかる厚労科研の進捗について報告された。

前回理事会で報告したアンケートが完了し、2 回目の委員会が開催された。委員会の結果に基づき、2 名に対するヒアリングを実施することとなり、理事会前日に 1 件目のヒアリングを実施した。ヒアリングの内容は現在議事録作成中である旨が報告された。また、2 件目のヒアリングについても、理事会終了後に実施予定である旨も報告された。

2 回目の委員会の議事の中心としては、臨床研究法に対する CRB、IRB の理解が進んでいないことが問題となっており、臨床研究、特に医療機器を対象とする研究に対しての理解不足が課題となっていることが考えられる旨が報告された。また、アンケートで集計された事例は、実際にはすべて臨床研究法における臨床研究に該当しないものであったが、IRB 側から該当するのではないかという指摘があり、研究を進めることができなかったという事例があったことについても報告された。上記を踏まえ、厚労省との相談の上、今後、臨床研究法への非該当事例をまとめ、年度末に向けて事例集の作成を進める旨が報告された。

上記に対して、現行の臨床研究法に対して学会から修正・改正を提案するという当初の目的に対し、現状では、黒田理事を中心として作成された該当性判断のガイドラインがあることを前提に、法律の作りこみについての議論は行わないという理解でよいかとの質問があった。

本件に対し、第2回までの委員会は現状の確認のみであり、そこまで踏み込んだ議論は行っていないが、ヒアリング結果を踏まえ、年度を超えてしまうかもしれないが3回目の委員会を実施予定であり、最終的に事例集に加えて報告書を作成する際に提案を盛り込むことに対して一定の理解が得られている印象である旨回答された。

また、特定臨床研究に該当しない場合に、CRBやIRBが結果として該当しない旨を返答するような文化の醸成が重要であり、ぜひ報告書に記載いただきたい旨コメントがあった。

16. 新入会、退会について【審議 V.1】 村垣理事

第4回理事会における入退会審査について、入会希望が正会員4名、準会員6名で、退会希望が正会員7名、準会員が2名、逝去者3名である旨が報告された。

入会希望者のうち推薦者欄が空白の方が1名いたが、堀（潤）第61回大会実行委員長が推薦することとした。

上記について、全会一致で承認された。

17. 名誉会員の推戴について【審議 V.2】 事務局

事務局から名誉会員候補者とその推薦について報告された。定款上は学会に対して特別な貢献があった者とされているが、現在までは理事等の推薦をもってノミネートしてきた。規約には正会員歴が通算10年以上、満63歳以上、支部長の就任期間が6年以上、理事監事の就任期間が6年以上などの条件があるが、理事会全体で確認する機会はこれまでなかったという経緯から、今回事務局で、63歳以上で会費未納のない先生方をリスト化し、さらに上記条件を満たす先生として、

志村孚城先生

三田村好矩先生

中沢一雄先生

澤芳樹先生

の4名が候補者として報告された。

上記に対して、実際の所属とリストの支部登録欄の記載が一致していない先生がおられることや、理事・監事歴もリストの項目に追加すべきであるとの指摘があった。また、理事・監事歴のない先生においては、支部長歴や特別功労にて推薦する方法があるが、支部長歴は直接名誉会員推薦につながる功績とはみなされないため、学会への貢献を明示すべきであるとの指摘もあった。

5月開催の理事会までに承認が間に合えば、6月の大会で名誉会員資格を授与できるため、上記4名の先生方について、横澤理事が三田村先生、中島（章）理事が志村先生、黒田理事もしくは木村理事が中沢先生、松村理事が澤先生の推薦を担当することとし、次回理事会で審議することとした。また、候補者の先生方の内諾を得た方が良い旨が指摘され、推薦者となる各理事に、事務局より候補者の略歴および連絡先を連絡することとした。

18.2022 年度 各事業計画・予算案の確認（みなし理事会について）【報告 W.1】

事務局

各委員会の事業計画、予算案提出のリマインドがなされた。内閣府への提出のためメール審議が必要であるため、未提出の委員会においては 3 月 17 日（木）までに事業計画、予算案を提出いただきたい旨が報告された。未提出の委員会については、事務局よりメールでのリマインドを行うこととした。

資料が集まり次第メール審議を行い、監事の確認ののち 3 月 28 日（月）に内閣府に提出する予定だが、全理事からの回答が必須であるためご協力いただきたい旨についても報告された。

19.生体医工学 web 辞典第一分冊の発刊について【報告 J】 平田理事

生体医工学 web 辞典の分冊の執筆・発刊の進捗について報告された。

生体医工学の web 辞典の第一分冊を 2021 年度中に発刊できる見込みであり、編集委員会の横澤理事の承認のもと、生体医工学誌編集部が発刊準備を進めている状況である旨が報告された。

第二分冊については用語を全く執筆されていない先生が半数以上おられるため、2022 年度になり次第リマインドをかける予定である。目標としては 2022 年 9 月には第二分冊を発刊できるよう準備を進めていきたい旨が報告された。

第一分冊が発刊できる目途が立ったため、未執筆の先生方にはこの状況が続くようであれば未執筆者リストを作成し理事会で報告することも検討すべきであるとの指摘があった。

20.生体医工学シンポジウム 2022 の準備状況【報告】 大城理事

生体医工学シンポジウム 2022 の準備状況について報告された。

ホームページが完成したため、URL を関係各位に拡散していただきたい旨依頼があった。現地開催を目標として準備中であり、5 月末の登録締切を予定としているが、各種情報決定次第ホームページに掲載していく旨が報告された。

以上

議事録署名人_____

議事録署名人_____

議事録署名人_____